

平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

1 基本情報

| | | | | | | | |
|----------------|-------|----------|---|-----|-------------|-----|--------------|
| 予算中事業コード | 20 | 予算小事業コード | 5 | 事業名 | 花と緑のたかつ推進事業 | | |
| 事業所管課 | 地域振興課 | | | 担当者 | 松本 法恒 | 連絡先 | 044-861-3133 |
| 関係局(局区連携事業は記載) | | | | | | | |

2 地域課題・事業の概要

| | |
|---------------|---|
| 事業によって解決すべき課題 | 都市化によりまちの緑が減少している中、緑地や水辺の整備、花と緑のまちづくりの推進により潤いのある空間を創出する。 |
| 事業概要 | 区内に潤いのある空間を創出するため、市民主体による花と緑のまちづくりの推進を図ることを目的とし、次の内容を実施する。 (1)区内各所に設置したコンテナ・花壇の維持管理 (2)道路公園センターと連携及び移管を遂行 (3)水仙(区の花)の球根の配布 |

3 予算・事業目標・取組の成果

| | | | | | | | |
|----------------------|--|----------|-----------|-----|-----------|-----|--------------|
| 当初予算額 | 1,503,000 | 予算額(調整後) | 1,498,000 | 決算額 | 1,486,470 | 不用額 | 11,530 |
| 不用の理由 | 見積差金(高津区まちづくり推進事業費に5,000円流用) | | | | | | |
| 事業目標 | 事業に対する認知度の向上を図り、新たな区民の参加を促すことで、花壇など植栽の整備を推進する。 | | | | | | |
| 事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組 | (1)区内各所に設置したコンテナ・花壇の維持管理 ●花街道の花壇について、道路公園センターとの連携を図り、団体が適正に運営できる環境を整える。 ●「エコシティたかつ」推進方針、溝口駅周辺地区緑化推進重点地区計画との調整・連携をさらに強化する。 (2)道路公園センターと連携及び移管を遂行 道路公園センターへの本事業所管課の移行期として、今年度はコンテナの維持管理と球根の配布のみを地域振興課が、その他の業務について道路公園センターが所管し、連携を図りながら実施する。 (3)水仙(区の花)の球根の配布 配布地区を区内2モデル地区と区内保育園等とし、親子で植物の成長を身近に感じられる環境を整えることで少しでも多くの区民に花と緑の楽しみを知ってもらおう。 | | | | | | |
| 事業目標を達成する上での課題等 | 昨年度、組織が運営委員会から連絡会に縮小したことで、コンテナや花壇の維持・管理、全体会など、現状の組織レベルにおける活動内容について行政と団体で調整を図る余地がある。また、既存のコンテナや花壇は区内公共施設や行政管理の場所のみとなっているため、それ以外の場所で個別に活動している団体への支援が課題となる。 | | | | | | |
| 実績 | 委託先：区民ミニ・ガーデン連絡会 花街道等のコンテナや花壇について、季節ごとの植栽を実施し、維持・管理した。11月には、キラリデッキ親子植栽体験を実施し、区内小学生に植栽の機会を提供した。また、2月には、全体会として緑化センターで講習を行い、連絡会としての交流を深める機会を設けた。 | | | | | | |
| 協働の視点 | 年間計画、個別取組の企画運営等、全般にわたって区民が主体的に関わり、行政は広報・連絡調整の一部を担うなど、適正な役割分担が実施されている。 | | | | | | |
| 環境配慮への視点 | 各種取組で使用する物品については、リユース品、再生品を使用するように配慮している。 | | | | | | |
| 取組の成果 | コンテナや花壇については、苗の選択から連絡会各担当班で行い、区民主体で季節に応じた植栽、維持・管理をすることが出来た。 キラリデッキ植栽体験の実施や、区内2モデル地区と区内保育園へ水仙球根の配布を通じて、多くの区民に花や緑の楽しみを知ってもらえる機会を設けることが出来た。 道路公園センターへの所管課移行期間であったが、概ね円滑に移行することが出来た。 | | | | | | 達成度 3 |

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

4 事業の方向性

| | |
|------------------------------|--|
| 取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性 | <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する |
| | 今後活動を継続していくために、連絡会メンバー数について公募による補充を継続する必要がある。また、区民ミニ・ガーデン以外の場所で個別に活動している団体に対する支援等、広く区民参加による花壇の管理が出来る仕組みを検討していく。 |

平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

1 基本情報

| | | | | | | | |
|----------------|---------------|----------|----|-----|------------------|-----|--------------|
| 予算中事業コード | 20 | 予算小事業コード | 10 | 事業名 | 高津区環境まちづくり普及啓発事業 | | |
| 事業所管課 | まちづくり推進部地域振興課 | | | 担当者 | 菅谷 | 連絡先 | 044-861-3144 |
| 関係局(局区連携事業は記載) | | | | | | | |

2 地域課題・事業の概要

| | |
|---------------|---|
| 事業によって解決すべき課題 | エコシティたかつの推進を図るため、区民の環境に関する意識を向上させ積極的な環境への取り組みを促す。 |
| 事業概要 | 環境に関する区民意識の醸成及び行動の促進を図るため、区役所庁内の「エコシティホール」化や緑のカーテンなど環境への取組についてコンクールを行う。 |

3 予算・事業目標・取組の成果

| | | | | | |
|----------------------|---|-----|-----------|-----|-----------------|
| 予算額 | 1,829,000 | 決算額 | 1,678,378 | 不用額 | 150,622 |
| 不用の理由 | 契約差金 | | | | |
| 事業目標 | 区役所庁内を「エコシティホール」と位置付け、来庁者の環境教育の場とする。また、緑のカーテンなど環境への取組についてエコ・エナライフコンクールを行い、表彰式等を通じて環境の普及及び啓発を行う。 | | | | |
| 事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組 | 「エコシティホール」化のため可動式細冷ミストシステムを設置し、打ち水効果の気化熱作用による冷却で節電を促進する。また、エコ・エナライフ部門及び緑のカーテン部門について、業者委託により募集、審査、表彰式、報告書の作成を行うとともに、協賛企業からの協賛品を受賞者等への賞品に充てる。 | | | | |
| 事業目標を達成する上での課題等 | 緑のカーテンに関するコンテストのマンネリ化・多催化に伴う、参加者不足。 | | | | |
| 実績 | ミストシステムは7/23~9/22に区役所と高津スポーツセンターに設置し、打ち水効果による冷却とともに節電の啓発を行った。また、エコエナライフコンクールについては多様化する市民の取り組みに合わせてライフスタイル部門を新設し、他部門とあわせて35作品の応募を得ることができた。表彰式についても新たな試みとして溝の口駅前キラリデッキを会場としてフラッシュモブ風な演出も加え、通行者も含めた多数の市民に啓発を行った。 | | | | |
| 協働の視点 | コンクールの審査員はエコシティたかつ推進会議をはじめとする関係団体からの推薦者で構成し、地域住民の視点による選考・表彰を行った。 | | | | |
| 環境配慮への視点 | 事業目的そのものが環境に資するものである。 | | | | |
| 取組の成果 | ミストシステムに関し、事業所・個人含めて複数の問い合わせがあった。3年間の取り組みにより、多様な緑のカーテンが地域で取組まれるなど、一定の啓発効果は得られた。コンクールの部門新設により応募作品数は昨年度を上回り、以前に増して多種多様な取組みが応募された。 | | | | 達成度 3 |

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

4 事業の方向性

| | |
|------------------------------|--|
| 取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性 | <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する |
| | 緑のカーテンの代表例としてゴーヤの苗・種子の配布等も本事業で行ってきたが、多様な植物によるカーテンが地域で実践されていること、連作障害を避けるため河川敷に使用済み園芸土が廃棄されているという報告があること、団体・個人とも応募者の固定化が見られること、部門の新設により多様な取り組みが応募されるようになった半面、審査の客観性の確保が困難になっていることなどから、コンクール方式による啓発は今年度で終了とする。区内で行われる様々なイベントに啓発活動に特化したデモンストレーションを行うことにより、事業目的を直接的に、数多くアピールしていく。 |

平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

1 基本情報

| | | | | | | | |
|----------------|-------|----------|----|-----|---------------|-----|--------------|
| 予算中事業コード | 20 | 予算小事業コード | 15 | 事業名 | 高津区民祭周辺環境対策事業 | | |
| 事業所管課 | 地域振興課 | | | 担当者 | 菅谷 | 連絡先 | 044-861-3144 |
| 関係局(局区連携事業は記載) | | | | | | | |

2 地域課題・事業の概要

| | |
|---------------|--|
| 事業によって解決すべき課題 | <ul style="list-style-type: none"> ●平成25年9月実施の普通ごみ収集の回数の見直しをはじめ、改訂された「川崎市一般廃棄物処理基本計画の行動計画」、および「プラスチック製容器包装の分別収集拡大」についての周知を実現する。 ●区民祭のメインイベント「パレード」にともなう交通環境の整備や、緊急車両通行用道路でもある大山街道の機能確保、沿道警備等に従事する作業環境の安全確保を実現する。 ●関係者、参観人に対する熱中症対策。 |
| 事業概要 | <ul style="list-style-type: none"> ●高津区民祭が20万人を動員する大規模イベントである事に着目し、単に廃棄物処理の視点に止まらず、地球環境問題を視野に入れた取り組みとして、地域住民と連携した環境対策の機会とする。 |

3 予算・事業目標・取組の成果

| | | | | | |
|----------------------|---|-----|-----------|-----|-----|
| 予算額 | 2,000,000 | 決算額 | 2,000,000 | 不用額 | 0 |
| 不用の理由 | | | | | |
| 事業目標 | <ul style="list-style-type: none"> ●ごみを「廃棄するもの」から、「資源になり得るもの」としての意識啓発 ●大量動員のイベントでの取り組みにより、市場経済のミニマム版おける循環型処理システムを実現する ●ボランティアの参加による地域、区民の意識高揚により「エコシティーたかつ」の理念を具現化する | | | | |
| 事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組 | <ul style="list-style-type: none"> ●改訂された市の行動計画の啓発・広報・周知 ●排出物の再利用可能な技術を持つ回収業者の選定 ●リユース食器の一部活用 ●地域住民や学生によるごみ処理、啓発活動 ●熱中症対策用クールミストの拠点への配備 ●参加者の安全確保のための沿道警備、交通整理 ●打ち水による地球温暖化対策実験の実施 | | | | |
| 事業目標を達成する上での課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ●20万人の集客・動員となる市内最大級のイベントにおいて、展開する場所の選定が、広報や周知の效果に大きく影響すると見込まれる ●沿道警備、交通整理の要員の安全確保 ●予算内での執行のための関係業者選定 | | | | |
| 実績 | 高津区民祭実行委員会を受託者とし、大山街道を会場とする区民祭のほぼ中央に民間駐車場を借り上げてメイン拠点を設置、展示・クールミスト設置等による啓発を行うとともに、沿道警備・交通整理及びスタッフ・参加者の水分補給所として提供した。また、展示ブースの一面には市の事業である「CCかわさき」の展示も行った。 | | | | |
| 協働の視点 | 地域住民の代表である区民祭実行委員会を受託者とし、対等な関係において具体的な取り組み内容に関する意見交換を行い実施した。 | | | | |
| 環境配慮への視点 | 事業目的そのものが環境に資するものである。 | | | | |
| 取組の成果 | 事業目的に掲げた啓発・資源循環を行った。 | | | | 達成度 |
| | | | | | 3 |

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

4 事業の方向性

| | |
|------------------------------|--|
| 取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性 | <input type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する |
| | 平成26年度も高津区民祭の開催準備が進められており、市民の環境意識の向上に合わせて啓発内容の検討を行い、事業継続する。 |

平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

1 基本情報

| | | | | | | | |
|----------------|--------------------|----------|----|-----|------------------------|-----|--------------|
| 予算中事業コード | 20 | 予算小事業コード | 20 | 事業名 | 「エコシティたかつ」推進事業（局区連携事業） | | |
| 事業所管課 | 企画課 | | | 担当者 | 小島・荒井 | 連絡先 | 044-861-3132 |
| 関係局（局区連携事業は記載） | 環境局、建設緑政局、教育委員会事務局 | | | | | | |

2 地域課題・事業の概要

| | |
|---------------|---|
| 事業によって解決すべき課題 | 地球環境危機の時代において、高津区でも顕在化しつつある自然環境、社会環境、生活環境に関する諸課題に対して、地域の多様な主体が協力して、総合的かつ多面的に取り組む必要がある。 特に、世界的な気候変動（地球温暖化）が進行し、異常気象や局地的豪雨、洪水、土砂災害、生物多様性喪失や健康への悪影響の発生が区内でも現れ始めており、従来の地球温暖化緩和策に加えて、流域思考に基く地球温暖化適応策と生物多様性保全の視点から取組を進める必要がある。 |
| 事業概要 | 「エコシティたかつ」推進方針に基き、各プロジェクトについて、関係局や関係団体と連携して取組を推進し、区民の環境意識の醸成を図りつつ、持続可能な循環型都市「エコシティたかつ」の実現を目指す。 《各プロジェクト》 (1)「エコシティたかつ」推進会議及び「エコシティたかつ」推進フォーラム (2)たかつの自然の賑わいづくり事業 (3)学校流域プロジェクト (4)エコ企業調査プロジェクト |

3 予算・事業目標・取組の成果

| | | | | | |
|----------------------|--|-----|-----------|-----|--------|
| 予算額 | 4,814,000 | 決算額 | 4,778,460 | 不用額 | 35,540 |
| 不用の理由 | 契約差金 | | | | |
| 事業目標 | (1)環境を大切にすることを育み、生活様式の変革を促すことで、「生活の質」を向上させ、豊かな市民生活の実現、新たな文化・価値創造をめざす。 (2)水系や流域、丘陵、崖線、谷戸などのランドスケープを重視し、生命の賑わい豊かな自然共生型の都市再生を、地域から推進する。 (3)局地的豪雨や台風の巨大化等による洪水など、気候変動によって増大すると予想される災害に適応しうる流域視野の地域の地形や水循環の特性に即した「水災害適応型都市」づくりを推進する。 | | | | |
| 事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組 | (1)「エコシティたかつ」推進会議を年3回、「エコシティたかつ」推進フォーラムを年1回、開催するとともに、会議・フォーラムを通じて、平成26年度以降の取組の方向性について検討・策定する。 (2)たかつの自然の賑わいづくり事業は、緑ヶ丘霊園における実践的な取組を開始する。 (3)学校流域プロジェクトは、市立養護学校にピオトープを整備するとともに、整備校（区内小学校14校）に対して学習支援を継続実施する。さらに、教職員向けの研修会を実施する。 (4)エコ企業調査プロジェクトを年1回実施する。 | | | | |
| 事業目標を達成する上での課題等 | (1)学校流域プロジェクト：学校との連絡調整 (2)たかつの自然の賑わい作り事業：実践的取組に向けた事業調整 (3)エコ企業調査プロジェクト：調査対象企業の選定及び連絡調整 | | | | |
| 実績 | (1)「エコシティたかつ」推進会議を3回を実施した。また、「エコシティたかつ」推進フォーラムを開催した。①日時：平成24年12月2日、②会場：高津区役所市民ホール、③天気：晴れ、④参加人数：約100名。平成26年度以降の取組の方向性について検討・策定した。（委託先：株式会社計画技術研究所） (2)たかつの自然の賑わいづくり事業は、市立緑ヶ丘霊園において現地調査と適応策・生物多様性保全のための実践的な取組を実施した。①日時：平成25年2月23日及び3月15日、②場所：市立緑ヶ丘霊園、③天気：晴れ、④参加人数：延べ約40名（委託先：NPO法人鶴見川流域ネットワーク） (3)学校流域プロジェクトは、市立養護学校にピオトープを新規整備した。また区内小学校14校に学習支援を実施するとともに、教職員向け研修会を実施した（委託先：NPO法人鶴見川流域ネットワーク） (4)エコ企業調査プロジェクトを1回実施した。（委託先：株式会社計画技術研究所）①日時：平成25年12月13日、②調査企業：㈱日本経済新聞川崎工場、むさしんじょう第2保育園、③天気：晴れ、④参加人数：約10名 | | | | |
| 協働の視点 | 学校との協働については、授業実施前に打合せを重ねて実施した。さらに、参加の輪を広げるため、たかつの自然の賑わいづくり事業では、市民の参加を呼びかけて、市民との協働で実施した。 | | | | |
| 環境配慮への視点 | 当事業の実施を通じて、区民の環境意識の醸成や、地球温暖化適応策・生物多様性の向上に向けた取組を推進することができた。 | | | | |
| 取組の成果 | (1)「エコシティたかつ」推進会議と「エコシティたかつ」推進フォーラムにより、各プロジェクトの推進状況の確認や推進方法について検討し、次年度以降の取組の方向性について策定するとともに、区民の環境意識の醸成を図ることができた。 (2)たかつの自然の賑わいづくり事業により、緑ヶ丘霊園内の保水力向上・生物多様性保全を進めることができた。 (3)学校流域プロジェクトにより、新たに1校のピオトープ整備を行い、地域のモデル基地を拡充することができた。また、児童・教員に対して生物多様性や流域思考について伝えることができた。 | | | | 達成度 |
| | | | | | 3 |

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

4 事業の方向性

| | |
|------------------------------|--|
| 取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性 | <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する |
| | (1)たかつの自然の賑わいづくり事業は、地形や流域を意識できる手法を取り入れながら、緑ヶ丘霊園における取組を推進していく。 (2)学校流域プロジェクトは、ピオトープ整備校（15校）における取組を継続するとともに、雨水活用の仕組みを順次導入していく。また、マニュアルを活用し、教員向けの研修及び取り組んでいく。さらに、長期的には教職員及び児童、地域住民等が主体となった学校ピオトープの維持・管理体制の構築を目指していく。 |

平成25年度 高津区地域課題対応事業 評価書

1 基本情報

| | | | | | | | |
|----------------|-----|----------|----|-----|-------------------|-----|--------------|
| 予算中事業コード | 20 | 予算小事業コード | 25 | 事業名 | 水と緑のネットワークづくり推進事業 | | |
| 事業所管課 | 企画課 | | | 担当者 | 松尾 | 連絡先 | 044-861-3131 |
| 関係局(局区連携事業は記載) | | | | | | | |

2 地域課題・事業の概要

| | |
|---------------|--|
| 事業によって解決すべき課題 | 溝口駅周辺地区は、多摩川崖線軸から多摩川にかけて久地緑地を中心とした豊かな緑が広がっており、また円筒分水や二ヶ領用水などの歴史的資源や、多摩川にそそく平瀬川支流など豊かな水辺が残る地域である。生きものの生息環境の創出、観光ルートの形成、多摩川河川敷広域広場に至る避難経路としての活用等を考慮しながら、これら地域資源のネットワークを構築し、地域の魅力向上(自然共生型都市再生)を図る必要がある。 |
| 事業概要 | 多摩川崖線軸から多摩川にかけての生態系(生体)ネットワークの形成、観光ルートの形成、多摩川河川敷広域広場に至る避難経路の確保を行うための条件分析や課題整備をおこない、ネットワークの構築に向け、公園事業、道路事業、文化財保存事業、河川事業等についての庁内外の関係部局との調整を図る。 |

3 予算・事業目標・取組の成果

| | | | | | |
|----------------------|--|-----|---|-----|---------|
| 予算額 | 998,000 | 決算額 | 0 | 不用額 | 998,000 |
| 不用の理由 | 外部の専門業者を利用せず、庁内及び国土交通省等との調整を図ったため | | | | |
| 事業目標 | 当該エリア現状の緑地保存状況、施設の配置状況、空地及び関連施策・事業等を把握して、対象地域の条件分析を行う。 | | | | |
| 事業目標達成に向けた今年度の具体的な取組 | 当該エリアについての土地所有者や地域の意向、関係部局の施策の把握。 | | | | |
| 事業目標を達成する上での課題等 | 川崎市所有地以外を多摩川崖線軸から多摩川にかけての生態系の保護や保全、多摩川河川敷広域広場に至る避難経路の確保しネットワーク化にいくためには、土地所有者等との調整、特に費用面等においては、非常に困難が予想される。 | | | | |
| 実績 | (1)かすみ堤エリアについては、借地も含めた広い視点で利用方法について協議していくことを土地所有者に依頼。 (2)当該地の利用に向け、国との協議を3回、地元との意見交換を3回実施した。 | | | | |
| 協働の視点 | かすみ堤エリアの利用に向けて、地元との意見交換を3回実施した。 | | | | |
| 環境配慮への視点 | 事業計画を進める中で環境配慮について地元町会と協力しながら進めていく。 | | | | |
| 取組の成果 | 次年度以降、協議依頼書に基づき、土地所有者と利用方法について協議に入る。 | | | | 達成度 |
| | | | | | 3 |

達成度 1:目標を大きく上回って達成 2:目標を上回って達成 3:目標をほぼ達成 4:目標を下回った 5:目標を大きく下回った

4 事業の方向性

| | |
|------------------------------|--|
| 取組の成果・予算編成等を踏まえ、翌年度以降の事業の方向性 | <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善のうえ継続 <input type="checkbox"/> 終了を見越して継続 <input type="checkbox"/> 現状どおり継続 <input type="checkbox"/> 事業を終了する |
| | 多摩川崖線軸から多摩川にかけて多角的な角度からネットワーク化し地域の魅力向上にむけた検討を全庁的に行う。地元町会と連携して事業計画を模索していく。次年度以降、協議依頼書に基づき、土地所有者も含めて、利用方法について協議していく。 |